

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

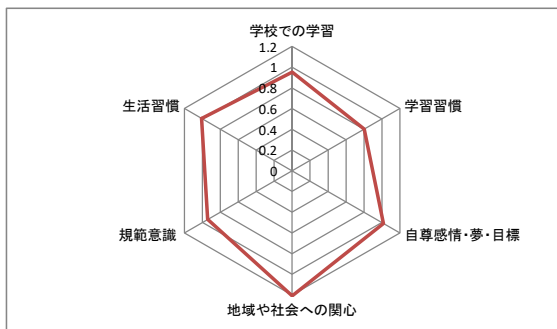
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っている問題が多い。 ・言語についての知識・理解・技能を問う問題で、漢字を書く問題に課題がある。 ・主語と述語の関係に注意して、文を正しく書く問題は全国平均をかなり上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の全国平均正答率が低い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っており、特に「書くこと」の領域の問題に課題がある。 ・「話すこと・聞くこと」の領域の問題は、全国平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話合いの参加者として質問の意図を捉える問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題の正答率が低い。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・すべての問題で、全国平均正答率に達していない。特に「数と計算」領域の問題は、全国平均正答率を大きく下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題は正答率が低い。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っている問題が多い。 ・「図形」領域の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	示された考えを解釈し、条件を変更して考察し表現する問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	合同な図形で敷き詰められた模様の中から、図形を見出す問題は正答率が低い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を大きく上回っている問題がほとんどである。 ・無回答率もほとんどの問題で0だった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	流されてきた土や石を積もらせる水の動きを表す言葉を選ぶ問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ問題は、正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・地域や社会への関心や自尊感情の高い児童が多く、全国平均を上回ったことは、地域行事への参加や「子どもつながりプログラム」等の活用の成果と考える。 ・家庭での学習について、宿題をきちんとする児童は多いが、宿題以外の学習習慣がっていない児童が多いのが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・基礎・基本の学力の定着を図るための放課後補充学習を週2回実施し、学年・学級の実態に応じた内容を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習の充実を図る。学年の実態に応じた内容の宿題や、自主学習の取り組み